

国 語

科 目 名	単 位 数	学 年	学 科
論理国語	4単位	2年	普通科

教 科 書	新論理国語（三省堂）	副 教 材	常用漢字ダブルクリア（尚文出版）
-------	------------	-------	------------------

科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や能力を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
-------	---

☆ 年間指導計画と学習のポイント ☆

	学 習 項 目	単元の評価の観点	
		①知識・技能	②思考・判断・表現
1 学期	- 論点を明確にする - 要旨を把握する - 内容や構成・論理の展開を捉える - 情報を整理し、活用する - 主張を支える根拠を捉える - データを整理し書き手の意図を捉える - 結論を導くための根拠を捉える - 的確に伝える	- 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 - 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 - 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	「書くこと」において、文書の構成や展開、表現の仕方について、自分の主張が伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特徴や課題を捉え直したりしている。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。
2 学期	- 主張を支える事例を吟味する - 事例の役割と意味を捉える - 書き手の思考過程を検証する - 根拠を明確にして考えを述べる - 文章や論理の構成を捉える - 書き手の意図を捉える - 送り手の意図を捉え解釈を深める - 論拠を吟味し伝えたいことを明確にする		
3 学期	- 情報を分析する - 根拠や例示の適切さを確かめる - 論理の攻勢を理解する - 立場や論点を明確にする - 表現の仕方と聞き手の意図との関係を捉える - さまざまな視点から評価する - 論拠を批判的に検討する - 立場の異なる読み手を説得する		

1 実社会に必要な言葉の知識や技能を身に付けるためにもたくさんの種類の本を読もう。

2 文章の内容を的確に捉え、それに関する自分の考えを深めよう。

3 自分の意見を他者に理解してもらえるよう、表現の仕方を学ぼう。

番号	評価の観点	評価規準
①	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。
②	思考・判断・表現	「書くこと」「読むこと」の各領域において論理的・批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深めようとしている。
③	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者と関わろうとしている。
定 期 考 査	1 学期中間・期末 2 学期中間・期末 学年末（計5回）	
評 価 方 法	以下を総合的に評価する。 ①知識・技能（定期考査、ファイル） ②思考・判断・表現（定期考査、レポート、課題、意見発表） ③主体的に学習に取り組む態度 （授業中の発言、レポートや意見発表の自己評価・相互評価）	